

かみくげ 恐竜の里新聞

平成二年五月二五日

発行：上久下恐竜の里づくり協議会

第13号

上久下
地域づくり
センター
0795 78 0001

丹波竜もびっくり！

280名の高校生一行

神戸市の県立伊川谷北高校一年生280名が4月24日校外活動で丹波竜の里にやってきました。

一行は7台の大型バスで発掘現場駐車場に入り、化石発見者から恐竜の生きていた当時の話や発見にまつわる話に耳を傾けました。駐車場は一時、バスと高校生で埋め尽くされ、発掘所までまっすぐに伸びた300メートルの農道は途切れることなく生徒たちの列が続いていました。発掘現場では実物大の木製モニュメントの丹波竜が過去最多の一行をびっくりした表情で見守っているようでした（写真）。

引率した同校の名生修子教諭は丹波竜の発掘ボランティアにも参加していることから、生徒達にも太古のロマンと地学の面白さを感じてもらおうと考えこの計画を実施されました。一行は川代公園で昼食をとり篠山の県立陶芸美術館に向かいました。

女子生徒のひとり「恐竜の発見された場所がこんなきれいな自然の中とは驚きです。また季節を変えて来たいです」と話していました。



恐竜モニュメントまえの高校生

恐竜の里
スタンプラリーに2千人

ゴールデンウィークの5月4日、5日、上久下自治協議会と里づくり協議会が主催するスタンプラリーに丹波市内外から2千人が参加し、新緑の里でのスタンプラリーを楽しみました。下滝駅や地域づくりセンターの受付で用意したスタンプ台紙と地域内地図を片手に家族連れらは田植えに忙しい田園地帯を思い思いに散策し、8箇所においた丹波竜の仲間たちを描いた恐竜スタンプを集めて丹波竜キャラクターグッズと交換しました。参加した子どもたちからは恐

竜スタンプが増えるたびに歓声が上がっていました。

発掘現場駐車場では10数種のグループ、商店がテントを並べ、飲み物や軽食、特産品を販売。今回はじめて地元商店も参加し、化石含岩層の地層をイメージした「御地想寿司」やコーヒー・ケーキや恐竜グッズの販売でイベントを盛り上げました。新しく駐車場に完成したモニュメントの隣では、上久下老壮会の役員が手づくりの「よもぎ入りのふるまいもち」を準備し、参加者の多くが季節の味を満喫しました。

西宮からイベントに参加した小学生は「恐竜のスタンプを集めてまわるのが楽しかった。歩くのは疲れたけど丹波竜の話も聞けて良かった」と話していました。



ふるさと支援事業

21年度計画まとまる

里づくり協議会は平成21年度ふるさと支援事業（上限200万円）の取り組み計画をまとめました（以下は主なものの）。

- ★発掘現場駐車場周辺竹やぶ整備
- ★駐車場周辺と発電所周辺にさくら

植樹

★拠点施設での化石発掘体験教室

★8集落共通の木の植樹（各戸配布）

★有機農野菜の栽培と販売、加工品開発
この事業は平成24年まで続きます。

かみくげホームページ読者から

3月に開通したかみくげホームページに毎日平均100から150人のアクセス（閲覧）があります。丹波市を離れて遠くから故郷を懐かしむ人たちも含め、多くの方に見てもらっています。一部読者からの感想を紹介しましょう。

◆ホームページ「かみくげ」を見るのが楽しみです。「里のみどころ」や「集落のよこがお」がとても懐かし、何度も見えています。恐竜の里新聞も楽しみにしています。毎月末にホームページで見せてもらっています。東京生まれの私は昭和19年に学童疎開で阿草部落に住んでいて、上久下小学校と中学校を卒業しました。上久下を離れて60年近くなりますが、本当になつかしく当時を思い出します。（愛知県・豊橋市 安井俊夫さん）

◆かみくげホームページを見せていただきしました。本当に自然のすばらしいところのように思いました。是非この夏には家族旅行で丹波地方を訪ねたいと思っています。特に、子供が恐竜好きで、丹波竜の発見された上久下に行きたいと思っています。夏が楽しみです。（富山県・女性 電話にて）

われらが里の元気人 見つけた！ 9

柳川瀬たまゑさん
(九三歳・畑内)



柳川瀬さんは大正5年7月生まれで93歳。今は息子さんからひ孫さんまで4世代家族で元気に暮らしておられます。17歳で助産婦をはじめられ、75年以上つづけていられます。その間、取り上げた赤ちゃんの数は数え切れず、上久下地区の人はほとんどが柳川瀬さんのお世話になっています。

中には立派に出世された人もあり、年齢も70歳以上の方から2世代、3世代にわたって出産に立ち会われています。「みなさんが自分のことなのでしょう」とか「みなさんから親しく声をかけてもらうことがうれしいです」と謙虚に話されています。「今、健康でいられるのもこの仕事のお陰で、人にはわからないよろこびを感じている」と感謝の気持ちを忘れないそうです。「上久下の人はいい

人ばかりですね」と問いかけられる柳川瀬さんに「自分で取り上げた人たちがばかりが立派な世代をつくっているからですよ」と笑って答えました。

丹波竜化石出現で地域のみなさんが命(いのち)の尊さ、大切さを今まで以上に考えるようになった今、柳川瀬さんが長年多くの命の誕生から次世代への命のバトンリレーにかかわってこれたことがどこか深くつながっているのではと感銘を受けました。

今は老人ホームの短期滞在や日帰りサービスで仲間のみなさんと談笑するのも楽しみの一つと言われています。お顔を拝見して、表情にも年齢を感じさせない若さを感じる元気人の柳川瀬さんでした。益々のご健勝をお祈りします。

化石発掘体験ツアーに600人 3か月イベント中程での集計

「あいたい兵庫デスティネーションキャンペン」で始まった4月から6月の日曜・祝日の丹波竜化石発掘体験ツアーに5月17日現在、阪神間から延べ600人が上久下を訪れました。

電車や車で出発点の柏原駅に午前と午後の部に別れて集合し、バスで山南化石工房と太田の慧日寺を見学したのち、地域づくりセンター東広場で化石発掘体験をし、発見現場周辺を見学してまわるコース。

参加者の多くは小学生以下のこともを連れた家族で、恐竜好きのこともたち

は限られた時間の中で懸命に化石を探し、炭化した植物化石や方解石、まれには恐竜の骨片や小動物のろっ骨や大腿骨を見つけた大喜びしていました。小動物(ネズミ類かトカゲ?)の肋骨を見つけた男児は「ルーペで拡大してみたらよく見えた。これも1億年以上も前の化石と聞いてびっくりした。」と話し、発掘体験の指導者のひとり、村上鷹夫さんは「みなさんがよるこんで体験してくれているのがうれしい。特にセンター前で毎回、帰りのバスから手を振ってくれる子どもたちの笑顔が忘れられない」と感想を述べていました。



ろっ骨を見つけた小学生

新設カルチャールーム 利用はじまる

5月2日、地域づくりセンター2階の大会議室を改装した「カルチャールーム」で、県立人と自然の博物館によって第3次発掘調査地元説明会が開かれました。三枝春生主任研究員は30人の参加者を前に、3次発掘で見つからなかった脚や首の骨も4次発掘に希望をつな

ぎたいと熱く話していました。
5月13日、JR西日本福知山支社は管内の社員27人を集めて研修会を開きました。発見者から「恐竜化石発見とまちおこし」や博物館の池田研究員から「丹波竜の発掘状況」などについて熱心に聞いていました。

プロジェクトやスクリーン、音響設備や展示品が充実した会場は、これら学習の場としての利用の機会が増えてくるものと期待されています。



カルチャールームでの研修会

6月の予定
◆6月20日(土) 午後8時
恐竜の里づくり協議会 地域づくりセンター